

令和6年度 第1回 静岡看護専門学校 学校関係者評価会議

- 1 日 時 令和6年4月24日（水） 15時30分～16時00分
- 2 場 所 静岡看護専門学校 1階 会議室
- 3 出席者 (委員) 櫻井委員、間淵委員、谷委員、市川委員
(事務局) 瀧副校長、吉田事務長、松永教務長、矢野・宮田技監
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1)「自己点検・自己評価結果」報告
(2)「自己点検・自己評価結果」について
(3)学校関係者評価について
- 6 会議内容

瀧

3月2日に38名卒業生を送り出しました。国家試験も全員合格しまして、15年連続100%合格です。

昨年は静岡県の指導調査もあり、法に則った学校運営がされているかについて確認されたが、特に指導もありませんでした。

令和6年度から全学年新カリキュラムになります。今日の報告は令和5年度の評価で、教育の質の向上のために大切な会議です。

委員の皆様には忌憚のない意見を頂きたいと思います。

吉田

本日は委員全員の出席で成立とします。

委員から自己紹介をお願いします

櫻井

この会議は、基礎教育の現状を知る機会でもあります。

今年も（意見を述べつつ）いろいろな情報を得ていきたいと思います。

間淵

私の所属は高齢の方が長期療養する病院です。

この学校からの実習は受けていませんが、今の学生がどんな教育を受けているか知る機会でもあると思って参加させていただきます。

市川

主たる実習病院として参加します。

今年度は多くの学生が入職しました。学生の状況、人柄は年々変化しているので、病院での指導に活かしていきたいと思います。

谷

保護者代表として参加させていただきます。

わからないことがたくさんありますが、いろいろと教えてもらいながら努めていきたいと思います。

事務局

(瀧、吉田、松永、矢野、宮田の順で挨拶)

吉田

委員長・副委員長の選出にうつります。委員長は委員の互選で定めるものとされています。どなたか推薦はありますか。

間淵

櫻井委員を推薦します。

吉田

ほかの委員の方いかかでしょうか。では、櫻井委員は委員長をお願いします。委員長は副委員長の指名をお願いします。

櫻井

市川委員にお願いしてはどうかと思います。

吉田

市川委員をお願いします。以降の進行を櫻井委員長にお願いします。

(1)「自己点検・自己評価結果」報告

櫻井

では議題1からお願いします。

瀧

資料（自己点検・自己評価報告書）に沿って説明

(2) 「自己点検・自己評価結果」について

櫻井 ありがとうございます。報告について不明な点やご意見あればお願いします。私から1つ。65か所実習に行っているという報告を聞いて、先生たちは1年中飛び回っているのだと思います。

中町のインターネット環境の整備に言及がありましたが、中町（実習控室）にいるのは市立病院の実習の時だけなので、それに限らずどこでもできるような、手間をかけない負担のないような動きができたらいいのかなと思いました。

とにかく先生たちの働き方というのを考えなければいけない時代に入ってきます。施設だけの問題ではなく、先生たちがそういう意識をもって学生に教えていく必要があると思います。

時間外やって当たり前、休憩なんか取れないという時代ではありません。もちろん、（休暇など）権利だけを主張するのではダメで、義務と権利は表裏一体です。よりよく働くために自分で考えられるような（学生を育てるために）先生たちにそういう姿を見せてもらいたい。

そういうことも含めて教育課程の中で検討いただければと思います

（評価項目としては）2のところもあるけど、とてもよく考えて進めていただいていると思います。全項目で、十分に努力されていると思います。

卒後アンケートについては、どこの学校でも同じで回収は難しいと聞いています。アンケートをやっていることが重要で、その成果が得られない（回収ができない）ということが、できていないということではないと思います。

間淵

毎年新しい工夫をし、努力されている。

人間が相手（の仕事）なので、いろいろな学校生活の中で詰まることがあると思います。時間内で学生に対応するということが難しくなるということもあるでしょう。

そういう学生をどんなふうに救済・指導をしていく工夫をしたらいいのか、実習場が配慮する点、実習場に協力をお願いする点もあるし、学生が悩んだ場合など即座に対応しなければならぬこともあります。

（教員の状況を）学生側にとって必要以上に配慮させるようにならないようにしてほしい。個別の対応は必要になってくるので、仕事のあり方は難しいと感じます。実習場側としても協力のヒントがあれば言ってもらいたいと感じました。

瀧

静病実習で、実習時間内で学生が記録をとったり、頭を整理したり、教員やメンバーと相談したりなどする場所が用意してもらえています。

学生の問題をタイムリーに解決に導くことができたり、同じようなことを繰り返してしまう学生をキャッチできたりできています。

間淵

実習の記録方法を変えて成果を上げているということも聞いています。
学習は楽しくて当たり前だと思いますが、そういう言葉が実際に出てきています。
学生の対応として時間外になることもある程度は致し方がないのかなと思います

松永

私たち（教員）自身が対話を重視しているというのは変えられたことだと思います。
臨床にお願いしたいところは学生たちの行動を評価し、明日はこれに取り組もうと送り出してくれることです。
患者に一番必要なことは現場の看護師が一番知っているのです。そういったところをお願いしたい。
学内会議時間の短縮に取り組んでいます。それにより情報交換が少なくなってきました。
しかし、必要時は臨地で指導方法の検討をしているので、いろいろな方向から見て、大きな壁に当たる前にキャッチできているのかなと思います。

間淵

それができていれば素敵なことだと思います。

市川

学習を楽しく思え、就職していただけると（受け入れ側としては助かる）。
時間外労働も厳しくなっています。
スマホでもできる学習教材を新人に教えても、自宅でも（仕事のために）学ぶなら時間外だと言われます。
こういった、生涯学習とは乖離した考えを持った新人はいます。仕事のための学びではなく自分のための学びをしてほしい。
また、多様性多様性と言われるが、多様性は無限です。
合理的配慮も考えなければならない。
今年度入ってきた新人で、毎年神奈川まで新人研修に行っているが、閉所恐怖症でバスに乗れない人がいました。1人だけ新幹線で行くという対応をしました。
学校ではそういった配慮はどのようにされていますか。

瀧

合理的配慮については、昨年度から看護学校協議会などで話題になっています。
合理的配慮が必要になる以前に、いろいろな人がいるという点では、これまで「なぜそんなことをするのか？なぜあの人こんななの？」と排除するような見方で見えてしまっていたものが、（自身含め教員が）認識論などを学び始めてからは「なんでそんなことしちゃうの？それはやっちゃダメでしょ！」ではなく、「なんでそうしたの？」とまず聞いてみるできるようになりました。
そうすると、（客観的にはおかしい行動に見えても）その人なりの理由があるのがわ

かります。

そうしたら、「一般的にはこう見えるからもう少し方法を変えたほうがいいよ」とか、最初に言ったような排除的な言い方ではなく、なんでだろう？とまずは聞いてみようというスタンスに変えることができるようになりました。

ケースはいろいろでパターン化できません。その都度検討していきます。

市川

看護師という職業を目指してきていると思っています。

ただ、血液が見られないとか、自分が針を向けられるとダメだとか（いろいろな人がいる）。

多様性には対応していきたいが、職員だけでなく患者さんも同じで、職員は患者さんの多様性にも配慮していなければいけません。

松永

本校では、数年前まで入学直後に新入生宿泊研修をしていました。

（引率は）大変でした。

学生それぞれの特性が表れています。

（今は時代が変わったので）看護師だから寝食まで共にして一緒にやっていくというところまで求めずとも、学校の中で協力していければいいと（考えが変わって）今はなくなっています。

そういうことが求められなくなっているんでしょう。

櫻井 何を多様性とするかは難しいですね。

多様性と言いながらも、他人と違うことは怖いと感じている人も多い。その一方で、自分のことは尊重してもらいたい。

何を多様性としてどこを尊重するのか周りが見極めていかなければならないと思います。

間淵

（実習を）受け入れた学生の中で、こういう人がいました。

1対1はしっかり関係を築けるのですが、何が焦点刺激なのかわかりませんが、その場で気持ち悪くなって動けなくなることがあるという方です。

その時は、落ち着いて休める環境を作りつつ様子を見ました。

その人は、卒業したら療養型の病院に行きたいと言っていました。これからの人生、どう過ごしていくのが幸せなのか考えると（全面的には同意できなかった）。

患者にとっても危険があり、安全管理義務に抵触する可能性があります。

何だったらできるのか、考えて道を作るような働きかけが必要じゃないかと学校側に伝えたことがあります。

また、ADHDの人で、自ら発達障害があると言ってきた人がいました。

小学生のころから診断されて常に医師や家族など周囲が成長をサポートしてきたそ

うです。

自分の特性を本人も理解しています。単発の試験だったら集中して点が取れるが、期末試験など多重課題になると点数が取れないそうです。

本人に聞いたらそういう特性を現場に共有していいというので、共有し、こだわりもあるが、本人が納得するまでかかわるようにしました。

急性期の病院ではそこまでかかわれないと思います。時間が割けないでしょう。

(この方の様に) 早期から本人が自分の特性が受け入れられるように学校にもかかわってほしい。

瀧

学校も月2回はスクールカウンセラーを入れて授業を入れずにカウンセリングを受ける時間を設けています。

個別に専門家としての助言が必要そうだと感じた学生には直接働きかけてもいます。

しかし、カウンセリング＝メンタルに問題があるという印象が払拭されません。

学生からすれば、ハードルが高いと感じるので、工夫していきたいと思います。

櫻井

谷さん何かありますか？

谷

いろいろと勉強になりました。

うちの娘は楽しく(通学させてもらっている)。

この学校に入ってよかったと思っている。

(3) 学校関係者評価について

櫻井

最後に評価項目についてです。変更したほうが良いということがあれば意見をお願いします。いかがでしょうか。

では、評価そのままとしますが、評価が2のものも十分できていると思いますので、今年度また再評価してください。

吉田

この会議の議事録はホームページ上に掲載します。

瀧

この会議の定例会は1回ですが、何かあればまた協力いただきたいと思います。

吉田

以上で閉会とします。